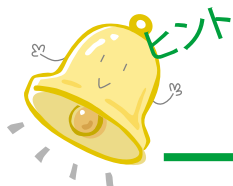




衣服の着脱



だんだんと、一人でできるようにしよう

少し大きめで、かかとが固い靴を用意しましょう。かかとに補助リングをつけてもよいでしょう。お尻をつけ、座らせてはかせましょう。

衣服は、はいたり着たりする方が、脱ぐことよりもかなり難しいのです。パンツが自分で脱げても、半年以上もたたないと自分ではけません。脱げるからはけると思って、子どもを責めないでください。

靴をはくには・・・



ステップ1

子どもの注意を引きつけながら、親がゆっくりと、靴をはいて見せる。



ステップ2

親が子どもに手を添えながら、一緒に最後まではかせる。



ステップ3

かかとだけ残してはかせる。手を離し、あとは自分ではくように言う。



ステップ4

足先だけはかせる。手を離し、あとは自分ではくように言う。



ステップ5

足元に靴を置き、自分ではくように言う。

留意点

●箸を使う時 (P17) と同じです。

自分でできた時は、うれしいものだよ！一緒に喜んでくれると、もっとうれしいよ！

着たり、はいたりする習慣を身につけるコツは、最初は、親が全部手伝い、手伝う部分を少しずつ減らしていくことです。パンツをはく、靴下をはくなども同じようにしてみましょう。

身の回りのことが自分でできたという満足感が、自立心のもとになり、やればできるという自信を生みます。

しっけの原理

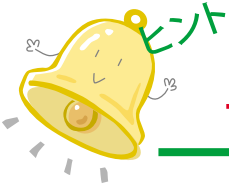
その3

手助けを減らしていく

例えば、パンツを一人で脱ぐ場合は、最初は親が全部脱がせてあげましょう。次は、足首までずらしてあげて、その後は自分で。次は、ひざまで脱がせてあげて、その後は自分で。……



睡眠



早寝、早起きをさせよう

大人の生活に合わせて、子どもをいつまでも起こしておくのはよくありません。夜8時か9時ごろには寝かせ、翌朝、すっきりと目覚めて、朝ごはんがおいしく食べられるように、早寝、早起きをさせましょう。

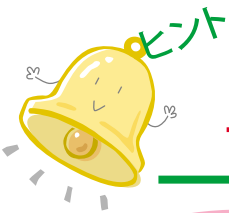
規則正しい生活のリズムを身につけるためには、夜寝る時刻と朝起きる時刻を規則正しくすることが大切です。睡眠時間を十分にとることは、子どもの発育に必要なことです。

寝る前に必ずトイレに行くようにし、水分をひかえることが大切です。

おやすみ



清潔



手を洗う習慣をつけよう

外で遊んだ後や、食事の前には、手を洗う習慣をつけましょう。その時、きれいになることは気持ちがいよいことを教えましょう。

まず、親が子どもの後ろから手を添えて、一緒に手を洗いましょう。だんだんと一人でできるように、ほめながら、手を添えることを減らしていきましょう。



しつけの原理

その4 親が模範を示す

例えば、決まった時間に寝る習慣をつける場合は、親と一緒に布団に入り、横になってあげましょう。寝る習慣の模範を示してください。

その5 できた時はほめる

例えば、手洗いの習慣をつける場合は、「きれいになってよかったね。」「じょうずに洗えたね。」と、ほめることが大切です。

2. 運動と手先の動きの基礎づくり

脚力をつけよう

「全身の運動」の多くに共通して必要な力は、片足で体重を支える脚力です。かかしのよう^{かかし}に一本足で立つことです。

このような運動では、片足で体重を支えたり、片足に瞬間的に力をいれる脚力が必要です。

ヨーイドンで走り出す

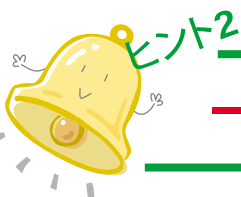
ボールを前にける

三輪車でペダルを踏んでこぐ



一緒にどんでん歩こう

いろいろなところを、いろいろな速さでどんでん歩いてください。歩いている時は、片足で体重を支えています。日ごろは、うまく体重を移動させているので、それぞれの脚にそれほど負担は感じません。しかし、坂道や砂利道を歩く時、速歩き、ゆっくり歩きの時など、体重を移動させるリズムが少し違うと、片足で体重をしっかり支えていることがわかります。このような、しっかりと支える経験の積み重ねが、脚力をつけるのです。買い物、お散歩など、一緒にどんでん歩いてください。



一緒に遊ぼう

子どもと一緒に遊ぶことも必要です。ボール遊びやまねっこ遊び、追いかっこなどの経験が、ボールを蹴ったり、かかしの真似をしたり、「ヨーイドン」で走ったりするきっかけになります。

日常生活や一対一の遊びの中で身につけた脚力は、将来、友だちと楽しく遊んだり、集団遊びをしたりするための基礎となります。暑いからとか、寒いからなど言わずに、子どもと一緒に、外でからだを動かして遊んでください。



手先の簡単な動きを楽しもう

「手先の動き」に共通して必要な力は、簡単な動きをまねる力です。親が書いたものをまねて、直線、円、十字を書いたり、親がしたことをまねて、はさみの一回切りや折り紙を半分に折ったりすることなどです。

線路の上を
走らせてごらん



親の動きをまねさせよう

親が「線路」と言って直線を書き、その上を子どもに、電車のおもちゃなどを走らせるのもよいでしょう。紙を使わなくても、親がミニカーを手で押しながら走らせるのをまねて、子どもに後に続いて走らせるのもよいでしょう。

親が子どもと一緒に
なって、同じ動作や似た動作を
して見せましょう。



洗濯ばさみを使って、ハンカチなどをつるさせるのは、はさみの一回切りの練習になります。また、洗濯したタオルやハンカチをたたませるのは、折り紙の練習になります。

日常生活で、似た
動きをさせましょう。



直線や円などを書かせる時は、子どもが持ちやすい長さの鉛筆を用意しましょう。一回切りを教える時は、子ども用のハサミと、一回で切り落とせる幅の紙を用意しましょう。

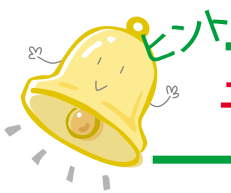
子どもがやりやすいように親が準備し、ゆっくりとした動きの模範を見せてあげましょう。

3. 言葉の基礎づくり



3歳ころの子どもが、よく口にする言葉です。このころの子どもは、ものすごいスピードで、言葉を覚えていきます。1日に30語とも、それ以上とも言われています。

この時期は、言葉の獲得に大切な時期です。



子どもの言葉を補って、言ってあげよう

3歳ころの子ども



日常生活の中で繰り返し聞く言葉は、自然に身につけていきます。

この時期には、できるだけ、いろんな場所へ連れて行って、いろんなものを見せてあげることが大切です。

そして、子どもが目にするものは、できるだけ言葉にしてあげましょう。

このような親の働きかけで、子どもは、もの様子を表す言葉を、しっかりと覚えていきます。



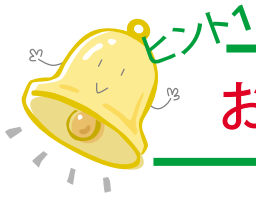
親は、子どもの話す言葉を使って、文にして返してあげればよいのです。子どもの言葉を補うような形で、子どもに返すことは、言葉を育てるよい方法です。

子どもとの言葉のやりとりを楽しんでください。

言葉とお手伝い

子どもはいろいろな経験をしながら、言葉を身につけていきます。できるだけ、家の簡単なお手伝いをさせてください。

親に言われたことをしっかりと理解して、そのとおりにお手伝いができることは、子どもの言葉の発達にとって大切なことです。



お手伝いをさせる工夫をしよう



もしもし、
〇〇を持ってきて
ください。

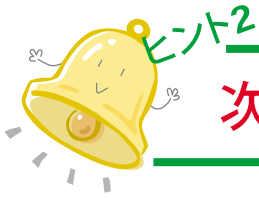
もしもし、
今日は、何が
食べたいですか？

カレーが
食べたいです。

はい。
わかりました。

電話ごっこは子どもが喜ぶ遊びです。電話ごっこの遊びでは、いろいろな言葉のやりとりがあり、それで言葉が育ちます。電話でお手伝いをたのんでみましょう。反抗期の子どもであっても、電話ごっこでたのまれたことは、「いや」とは言いません。

お手伝いをたのむ前に、いろいろとお話をしましょう。その後でお伝いをたのみましょう。難しいことをたのんでも、なかなか理解できないので、できるだけわかりやすい簡単なものにしましょう。お手伝いととしての家族との言葉のやりとりや、電話ごっこでの親との会話が言葉を育てるのです。



次にしてくれるお手伝いを聞こう

子どもがお手伝いをしたら、笑顔でだきしめながら、十分にほめてあげましょう。そして、「えらいね。〇〇ちゃんは、ほかにどんなお手伝いができるかな?」と聞いてあげてください。子どもは喜んでしっかりと答えてくれるでしょう。

うーんとね。
パパにメガネ
持って行く。

えらいね。
次は、何を手伝って
くれる?



どうすれば大好きな親に喜んでもらえるのかを考え、自分の知っている言葉で表現することは、言葉の発達にとってとてもよい刺激になります。

Q&A

Q. 3歳になるのに、まだ赤ちゃん言葉（幼児語）を使っています。大丈夫でしょうか？

A. 幼児語には「足→アンヨ」「寝る→ネンネ」などの単語と、「椅子→イツ」「象→ドウ」などの発音があります。3、4歳ころから減少し、入学までにはなくなります。

気がついた時は、言い直しをさせるのではなく、「アシを出して」「イスにかけて」などと言ってあげましょう。長引く時は、保健センターなどに相談しましょう。

赤ちゃんがえり

最初に生まれた子どもには、親はとかく、過保護になり、溺愛しがちです。子どもは親の愛情を一身に受け、なに不自由なく自分勝手に行動でき、欲求不満を経験することがありません。

ところが、弟や妹が生まれたらどうなるでしょうか。



赤ちゃんがえりって?

弟や妹の出産で、お母さんが入院中や退院してから、毎晩オネショをします。箸をほったらかしてスプーンで食べたり、自分で食べなくなったりします。赤ちゃん言葉を使ったり、指しゃぶりが復活したりします。

このようなことをします。



赤ちゃんがえりとは、独り占めしていた親の愛情が、弟や妹に横取りされて生じる欲求不満のために、無意識のうちに、より幼い行動に逆もどり（退行）し、親の愛情を得ようとする行動であると言われています。

弟や妹が生まれて赤ちゃんがえりに気づいた時に、『お兄（姉）ちゃんのくせに』とか『赤ちゃんのまねをするな』などと、厳しくしかったり、たたいたりしてはいけません。弟や妹と同じような親の愛情を求めているのです。弟や妹と同じようにしてほしいのです。

しからずに、弟や妹と同じように接してやれば、ほとんどの赤ちゃんがえりは、いつの間にか自然になくなります。

「お兄（姉）ちゃんのくせに」というしかり方は、兄や姉を萎縮させてしまうことがあるよ。

4. 自我のめばえ

反抗期をうまく過ごそう

「いや」は、自我の第一歩です

2～4歳のころになると、およそ半年間、親に反抗する時期があります。これが第一反抗期です。この時期は、親や他人に反抗することで、自分を意識し、自分の思いどおりにならないことがあることも学んでいきます。

しかし、子どもが反抗すると手に負えないので、この反抗への対策を立てておく必要があります。

お使いに行くよ。

今、遊んでいるからいや。

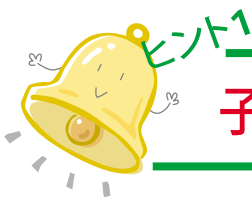
ママだって忙しいんだから。

でも、遊びたいもん。

いい加減にしないでよ。

えーん、ママのいじわる。

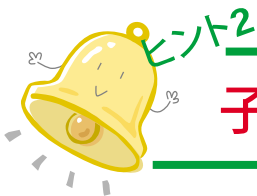
3歳ころの子ども



子どもの気持ちを認めてあげよう

「そうねえ、〇〇ちゃん、遊びたいんやね。けどね、お母さんもお使いに行かないといけないのよ。わかってくれるよね。」と、優しい言葉をかけてください。

こんなやりとりは、どこのご家庭でも見られるのではないのでしょうか。



子どもに自分で決めさせよう

大切なのは、子どもに自分で判断する機会を与えることです。そして、親が子どもの気持ちを大切にしていることを、子どもに実感させるようにしましょう。

どっちの服を着て行こうか？

緑がいい。

緑の服よく似合うよ。お使い行こうか？

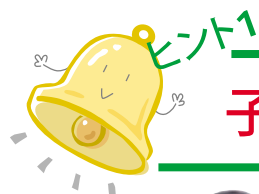
はい。



友だちづくりを支援よう

3歳ころは、保育所（園）や幼稚園の砂場で遊んでいる子ども、近くの公園で見かける子どもなど、自分以外の子どもを意識しはじめます。

友だちとの遊びがうまくできる子どもに育てるには、どのようなことが大切でしょうか。



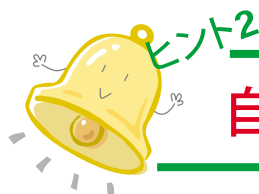
子どもの集まる場所に出かけよう



一緒にいることが友だちのはじまりです。

一緒の場所にいれば、自然に友だちとのふれあいが生まれてきます。言葉で話をしなくても、子ども同士はお互いを意識しているのです。他の子どもとのかかわりを優しく見守ることが大切です。

3歳ころの子ども



自分の気持ちを表現させよう

他の子どものおもちゃを貸してほしいと思っている時、その気持ちを親が「○○ちゃん、それ貸して。」と、言葉にしてあげてください。

子どもがそれをまねして、ちゃんと言葉にできれば、それが自己表現のスタートです。人とのかかわりの第一歩です。うんとほめてください。

自分の気持ちが素直に表現できることは、対人関係の基本です。

「これ貸して。」の一言は、自己主張の第一歩です。



きょうだいげんか



きょうだい関係って？

きょうだいは、もともと仲よしです。けんかしてもすぐに仲直りし、楽しく遊ぶことができます。

きょうだいがある子どもは、集団になじみやすいと言われていました。それは、きょうだいとの遊びやけんかなどをおして、友だちとの遊び方やつき合い方を学ぶからです。

きょうだいげんかは気になりますが、親としてうまくつき合い、子どもの社会性を育てる機会にしましょう。

きょうだいげんかはどうして起こるの？

仲よく遊んでいたかと思えば、突然、取っ組み合いのけんかが始まります。親から見ればささいなことでも、子どもの自己主張がけんかの原因となります。

時には、親の態度が不公平であると思った時、きょうだいと比較された時、親の愛情を奪い合う時などもけんかの原因になります。

チャンネル争い

おやつの分け前

おもちゃや絵本の取り合い

このような場合は、親のかかわり方を振り返ってみましょう。

きょうだいげんかにはどうすればよいの？

- ① 危険な場合だけ、中に割って入り、引き離しましょう。
- ② 危険でないかぎり、すぐにやめさせず、しばらく様子を見てください。きょうだいでも解決できたら、ほめてあげましょう。
- ③ けんかの解決は、できるだけ子ども同士でできるようにサポートしてあげましょう。
- ④ けんかだけを見て、一方の子をしかってはいけません。両方の言い分をよく聞いてあげましょう。
- ⑤ 兄や姉はとかくしかられがちで、我慢させられます。公平にしかったり、ほめたりしましょう。
- ⑥ 兄や姉のものを弟や妹が欲しがりますが、年齢の違いを教え、できるだけ、違うものを与えるようにしましょう。



IV 5歳ころの子ども



子どもの様子 P31

1. 社会生活の基礎づくり

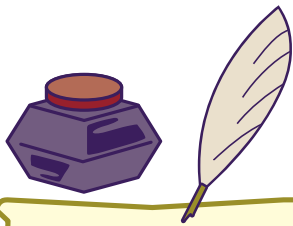
- 友だちづくりができる子どもに P33
- 自発性のある子どもに P34
- 責任感のある子どもに P34
- 「良いこと」「悪いこと」が判断できる子どもに P35
- 協調性のある子どもに P36

コラム…ちょっと振り返ってみませんか P37

コラム…ほめてますか?しかってますか? P39

2. 運動と手先の動きのステップアップ

- リズミカルな動きへ発展させよう P41
- 手先の動きを楽しもう P42



3. コミュニケーションづくり

- なんて、どうして? P43
- 絵本を生かして P44
- 文字への興味 P44

4. 生活習慣の完成に向けて

- 食事 P45
- 排泄 P46

Q&A P46

- 衣服の着脱 P47
- あいさつ P47
- 清潔 P48



子どもの様子

(「KIDS乳幼児発達スケール」を参照しました。)

「七つの窓(P1)」から発達を見ると、5歳ごろの子どもはこんなことをするよ。でも、個人差があるよ。



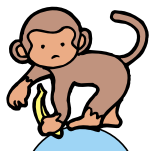
からだの動き



線の上を2メートルくらい歩く



自分でのりをつけて、紙をはる



手先の動き



はずむボールをつかむ



まねて四角を書く



スキップをする



車や花などをそれらしく描く



経験したことをそれらしく描く



立ち乗りで、ブランコをこぐ



点や線にそって紙を切る



折り紙で、簡単なものを折る

目は見るもの、耳は聞くもの、とわかる

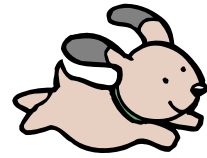
右、左がわかる

「五つちょうだい」と言うと、五つくれる

厚い、薄いがわかる

聞いてわかる言葉

話す言葉



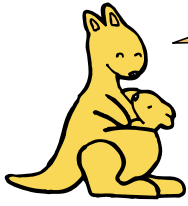
赤ちゃん言葉を使わない

ひらがなで書かれた自分の名前を読む

昨日あったことを話す



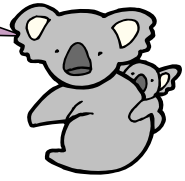
5歳ごろの子ども



子どもとの関係

- グループでごっこ遊びをする
- 友だちといっしょに、砂場で山などを作る
- 友だちを家にさそう
- 小さい子の世話をする
- 鬼ごっこのルールがわかる
- ジャンケンで勝ち負けを決める

親(大人)との関係



- 幼稚園や保育所(園)の先生の指示に従う
- 親に行き先を言って、遊びに行く
- いたずらを注意されたら、すぐにやめる
- 悪いことをしたら、自分からあやまる

一人で着たり、脱いだりする

大便の後、自分でおしりをふく

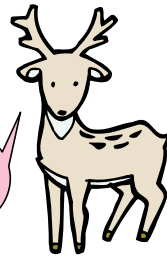
入浴後、自分でからだをふく

寝る前に、自分からトイレに行く

自分で歯みがきをする

食事の後片付けを手伝う

生活習慣



箸を使って食べる

名前

身長

 cm

生年月日

体重

 kg

ここに写真を貼ってください

1. 社会生活の基礎づくり



友だちづくりができる子どもに



「遊び」は、友だちづくりの基本です

5歳ころになると、言葉も発達し、十分に気持ちが伝えられます。幼稚園や保育所（園）で仲よし同士で遊ぶことが、とても楽しくなってきます。遊びはバラエティーに富み、そこには、子どもなりのルールがたくさんあります。他の子どもとルールのある遊びをしながら、友だちづくりをしていきます。

子どもの社会性を育てるために必要なことです。



ルールが遊びを楽しくすることを教えよう



順番を守らなかったら、面白くないでしょう。



ほら、みんなで仲よく、順番にしたら、楽しいよね。

遊びの中で自分勝手にルールを破ると、自分も、みんなも、遊びが面白くなくなることがわかってきます。

ルールの大切さを子どもにしっかりと教えてください。



自発性のある子どもに



「面白そう」が、「やる気」の第一歩です

5歳ころは、いろいろなことに興味をもち、やってみたくなる時期です。面白そうであれば、それをしようという気持ちになります。そこに自発性が生まれてきます。自分から進んで、さまざまな新しいことを経験し、大きく成長していきます。

子どもの、それをしようという気持ちを大切に、できるまで待ってあげることが大切です。



安心感が「やる気」を伸ばす

子どもが何か新しいことをする時には、子どもなりの不安があります。しかし、親がそばにいれば、親がいるという安心感から、積極的に新しいことに挑戦できるのです。この安心感が、子どもの自発性を伸ばすのです。

「ここで見ていてあげるからね。」



責任感のある子どもに

5歳ころになると、親からいろいろな手伝いをたのまれても、しっかりとできるようになります。自分に与えられた仕事を、しっかりとしなければいけないという自覚が生まれてくるわけです。これが責任感の基礎となります。



お手伝いをほめてあげよう

子どもは誰でも、親にほめてもらおうと、次もまた、お手伝いをしようという気持ちになります。

はじめから、責任感をもって仕事をしなければならないと思っている子どもはいません。何かのお手伝いをして、ほめてもらった経験が、責任感を育てる土台となるのです。

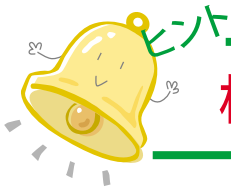




「良いこと」「悪いこと」が判断できる子どもに

5歳ころは、良いこと、悪いことの判断を身につける大切な時期です。子どもがいたずらをした時や、約束を守らなかった時にはしかりましょう。そして、いたずらをしてはいけない、約束は守らなければいけないことを教えましょう。

良いことと悪いことを、自分でしっかりと判断できるようになることが大切です。



相手の気持ちを言葉にしてあげよう

人に迷惑をかけること、人を傷つけることは、悪いことだということを教えることが最も大切です。相手の気持ちになれない子どもには、親が相手の気持ちを言葉にしてあげてください。

だって、Bちゃんがぼくのおもちゃを取ろうとするんだもん。

けんかしてBちゃんが泣いちゃったの？

Bちゃんは、きっと、とても悲しかったと思うよ。

Aちゃんも、Bちゃんの持っているおもちゃで遊びたくなかったことがあるでしょう。

うん・・・

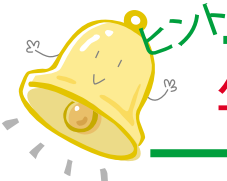
このような言葉かけをしていれば、子どもは自然と相手の気持ちを考えるようになり、相手を傷つけなくなるでしょう。
自分からおもちゃを貸してあげた時は、ほめてあげましょう。

5歳ころの子ども



協調性のある子どもに

人とうまくつき合えることを、協調性があると言います。協調性を身につけるためには、自分の気持ちにある程度コントロールする必要があります。自分のしたいことばかりをして、気持ちのコントロールができなければ、たちまち、けんかになってしまい、友だちとうまくつき合うことなどできません。



年上や年下の子どもと触れ合う機会をつくろう

5歳ごろの子ども



「〇〇ちゃんのめんどろを見てあげてね。」

同じ年齢の子ども同士では、我慢できないことでも、相手が年下の子どもであれば、我慢したり、その子どものめんどろをみようという気持ちになったりするでしょう。反対に、相手が年上の子どもなら、多少わがママを言っても、許してもらえることもあるでしょう。



相手の年齢に応じて、自分が我慢しなければならない時、そうしなくてもよい時などを知っていきます。これはとても大切なことです。最近、きょうだいの数が少ないので、できるだけ異年齢の子どもと触れ合うようにさせましょう。年下の子どものめんどろをみる経験、年上の子どもに大切にされる経験をしながら、自分をコントロールする力が育っていきます。

ちょっと振り返ってみませんか ～あなたの子育て～

きびしすぎませんか？
世話をやきすぎてい
ませんか？



子どもに親の考えを押しつけ、厳しすぎる親がいれば、子どもの要求を何でも聞いてやる親、子どもが自分でできることでも手伝ってやる親、子どものすることをけなすような親がいます。このように、子育てやしつけに見られる親の態度やかかわり方が子どもに影響を与えます。自分の子どもへの接し方を振り返ってみませんか。

でも、子育てやしつけに見られる親の態度やかかわり方だけで、子どもの性格がつくられるわけではありませんので、誤解のないようにしてください。



親のかかわり方と子どもへの影響

過保護型の親

世話のやりすぎ、かばいすぎ、口うるさい、子どもができたことでも手をかす、友だちや学業など過剰に心配する、年齢以下の扱いをする。



子ども

依存的、消極的、臆病、忍耐力や責任感が乏しい、集団生活になじみにくい。

できあい溺愛型の親

甘やかしすぎ、子ども本位、子どもの言いなりになる、何でも子どもに味方する、子どもをしめることができない。

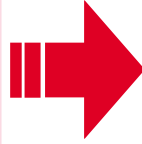


子ども

甘えん坊、わがまま、自己中心、忍耐力や責任感が乏しい。

厳格型の親

厳しすぎ、親の考えを押しつける、無理な要求をする、命令や禁止が多い。

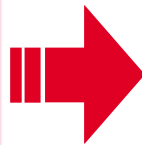


子ども

神経質、従順、弱気、劣等感が強い、人の顔色をうかがう、反抗的。

無視型の親

ほったらかし、子どもに無関心、愛情が乏しい、親本位、子どもを信用しない、けなす。

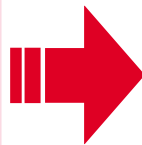


子ども

表情が暗い、意欲が乏しい、人の注意を引く、愛情を求める、乱暴、反抗的。

矛盾・不一致型の親

態度に一貫性がない、感情的、気分でほめたりしかったりする。両親の意見が対立する、両親の仲が悪い。



子ども

親に不信感や反感をもつ、疑い深い、判断力が乏しい、情緒不安定、衝動的、反抗的。

こんなふうにしてみませんか？

- ① 子どもの言うことに耳を傾けましょう。
- ② いつまでも赤ちゃん扱いをしないようにしましょう。
- ③ しつこさをきちんとし、善悪のけじめをつけましょう。
- ④ 親の考えを強く押しつけないようにしましょう。
- ⑤ 子どもの行動に関心をもち、長所をほめてあげましょう。
- ⑥ その時の気分で、ほめたりしかったりしないようにしましょう。
- ⑦ 子どもの前で言い争ったり、ぐちをこぼしたりしないようにしましょう。

ほめてますか？ しかってますか？

ほめること・しかることはしつけのコツ

ほめることとしかることは、しつけや教育の一つの手段です。こぼさずに食べたり、自分でパンツがはけたり、友だちと仲よく遊べたり、ブランコで順番が守れたりすると、親からほめられます。一方、物をこわしたり、危険なことをしたり、友だちをたたいたり、いじめたりすると、親からしかられます。

このようにして、子どもは望ましい行動を身につけていきます。

ほめること・しかることのメリットとデメリット

ほめられると

- ① うれしい、喜ぶ
- ② 満足する、成功感を味わう
- ③ 自信をもつ、やる気を起こす
- ④ ほめられた行動を繰り返す
- ⑤ ほめた人を好きになる

しかられると

- ① 悲しい、泣く、腹が立つ
- ② 欲求不満になる、失敗感を味わう
- ③ 自信をなくす、やる気をなくす
- ④ しかられた行動をやめるとは限らない、何をしたらよいかわからない
- ⑤ しかった人を嫌いになる

しかって、教えることが大切

このように、しかるよりもほめる方が望ましいことは明らかです。そのためか、子どもが悪いことをしても、人に迷惑をかけても、危険なことをしても、まったくしからない親を見かけることがあります。

でも、しかるべき時にはきちんとしかり、正しいことを教えてあげましょう。そうしないと、身の回りのことができない子ども、わがまま放題に振る舞う子ども、善悪の判断ができない子どもになりかねません。望ましくない行動をしかり、望ましい行動を教えることが大切です。

ほめ方・しかり方のポイント

- ① 子どもの短所は目につきがちです。
でも、あまりしからずに、長所をほめてあげましょう。
- ② 頑張った時は、必ずほめてあげましょう。
できない時でも絶対にしかってはいけません。努力を認め、励ましてください。
- ③ 同じことについて、ある時はほめ、ある時はしかることのないようにしましょう。
- ④ きょうだいや他の子どもと比べて、ほめたりしかったりしないようにしましょう。

がんばったね。



ハウ・ツー しかり方

- ① たたかれても、何が悪かったのか子どもにはわかりません。たたくことはやめて、何が悪かったのかその理由をゆっくりと教えましょう。
- ② 『あほ』『ぐず』『怖がり』『甘えた』など、弱点を指摘する言葉は避けましょう。
- ③ 一度に一つのことだけをしかるようにしましょう。
- ④ 『だめ、だめ』『やめなさい』としかるだけでなく、そのあとで『こうしなさい』と、子どもがすることを教えてあげましょう。
- ⑤ 物を投げたり壊したりしてあばれた時は、からだを押さえたり手を持ったりして、静かに『片付けようね』と言います。親が手伝いながら片付けをさせましょう。片付けたら、ほめてあげましょう。
- ⑥ だだをこねた時などは、機嫌を取らないようにしましょう。『これで遊ぼうね』などと言って、別のことに気持ちを向けるようにしましょう。